



ハイナイト祈禱課題 2024年4月号

1. 多方面の戦いに直面するイスラエルを覚えて

世界の目は、ガザに向けられています。イスラエルは今、7つの戦線で戦いを強いられています。国内では、ガザ地区のハマス、レバノンとの国境ではヒズボラ、西岸地区ではテロリストたちとの戦い。国外では、イエメンのフーシ派、シリアとイラクにあるテロ組織、そしてこれらすべての組織を支援し、核開発を進めるイランです。いずれも、イスラエル消滅を狙う勢力で、イスラエルは文字どおり、国の存亡をかけた戦いのただ中にあります。

特に懸念されているのが、ヒズボラとの戦闘です。全面戦争になれば、ハマスとの戦争よりも、はるかに広範囲で破壊的なものになると予想されています。ヒズボラは、イランの全面支援を受ける代理組織で、イスラエル全土を射程距離に収める20万発のミサイルを保有し、イスラエル最大の脅威とされてきました。ハマス同様、イスラエルに侵入するための地下トンネルをつくり、民家に軍事拠点をつくって民間人を人間の盾にしようとしています。ヒズボラは、昨年10月の戦争開始以来、連日、国境沿いの町に向けてロケット弾や無人機などによる攻撃を続けており、イスラエルの北部住民の約8万人が家を離れて避難しています。一方イスラエルも、攻撃を阻止するため、レバノンとシリアのヒズボラの拠点を攻撃し、ヒズボラの幹部や戦闘員が死亡しています。

現在、イスラエルがハマス最後の拠点、ガザ南

部のラファでの軍事作戦を決行するかどうか、世界が注目しています。実際にラファに侵攻した場合、イスラエルを全面攻撃するよう、イランが、ヒズボラに許可を出したと報じられています。イスラエルは、人質の奪回とハマスの解体のために、ラファ攻撃を辞さない構えを見せており、いよいよヒズボラとの全面戦争が近いのではないかと緊張が高まっています。

イスラエルは今、平和共存どころか、イスラエルの生存を認めない、イスラエル絶滅を狙う勢力と同時に、多方面で戦っています。加えて、不平等かつ難航を極める人質返還交渉、そして事実に基づかない反イスラエルの国際世論やメディア戦争に直面しています。これも、歴史上何度も繰り返されてきた「イスラエルを何としても滅ぼす」という激しい闇の力の働きです。私たちは祈りをもって、この闇の力に対抗してまいりましょう。



特に懸念される北部国境レバノンのテロ組織ヒズボラとの戦闘
©khamenei.ir CC BY 4.0

エルサレムよ。わたしはあなたの城壁の上に見張り人を置いた。昼の間も、夜の間も、彼らは決して黙ってはいならない。主に覚えられている者たちよ。黙りこんではならない。(イザヤ62:6)新改訳第三版

- ① 首相や国防軍の上層部他、国のリーダーたちに主からの知恵が与えられ、全人質の救出と共に、戦争の終結、大規模戦争の回避がなされるように。
- ② 前線で戦う国防軍の兵士や、戦争で傷つくすべての人に主の守りと慰め、平和が与えられるように。
- ③ イスラエル絶滅に燃える人々の心が、主によって変えられるように。

2. 能登半島地震支援活動の場が広がっていくように

能登半島地震の発生から3カ月以上がたちました。復旧が徐々に進む一方、まだ手つかずの地域も多くあります。特に、震度7を観測した輪島市では、地面が4mも隆起した場所があり、復旧のめどが立っていません。水道管の被害は、東日本大震災の約7倍で、甚大な被害となりました。3月19日現在も、石川県内で約1万3千戸が断水中です。

支援活動が進められる中、支援者たちの葛藤も浮き彫りとなってきました。金沢市で30年以上牧会する金沢グレイスチャペルの辻本眞悟先生のお話です。

「私たちは、能登ヘルプなどと協力しながら食料や物資の支援を行っています。ただ、支援を遠慮されることも多いです。能登の人は義理堅く、

支援を受けたらお礼が必要だと考え、なかなか見知らぬ人には甘えられません。支援にうかがっても、必要を聞き出すのが難しい。膨大な必要を目の前にしながら、手を差し伸べられないのは本当に歯がゆいです。まずは関係づくりが必要だと考え、私たちは教会員の医師を頼りに、その病院内での支援活動を始めました。そこから支援の輪を広げていくつもりです。今後、支援活動は4～5年は続くでしょう。ぜひ地域に入っていけるようお祈りください」



地震直後から活動続ける金沢グレイスチャペル 辻本眞悟先生(最右) 能登ヘルプの皆さんと共に
写真提供:辻本眞悟先生

このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。(マタイ5:16)

- ① クリスマンがキリストの香りと光を放ちながら被災地に入り、必要な支援ができるように。
- ② 支援物資が受け入れられ、被災された方々が生活を再建していけるように。
- ③ 言葉によらない、愛の実践を通して、地元住民が神の愛を知ることができるように。

3. テロ被害者の生活再建への支援を覚えて

「キブツ・ベアリ」は、イスラエル南部最大のキブツでした。多くの平和活動家が住み、ガザ市民を受け入れて、彼らの支援もしていました。しかし、今や、この場所は「大虐殺の代名詞」となっていました。虐殺、強姦、切断、拉致……テロは残忍で、放火された家では、行方不明者の痕跡をわずかでも探し出そうと、普段は発掘現場で働く考古学者たちが灰の中を捜索したほどです。また、愛する家族と家を失った人々、足を切断して人生を再出発する人もいます。

現在、住民たちは避難していますが、キブツの人々が育ててきた農作物は、収穫を待っています。BFPチームがこの場所を訪れ、収穫を手伝いました。CEOのピーター・ファストのレポートです。



最も激しい攻撃を受けたキブツ・ベアリ 家々に掲げられた犠牲者の写真
Photo by McCoy Brown/Bridgesforpeace.com

映像はこちら ▶▶▶



<https://youtu.be/fTJqMMVKE9Y>

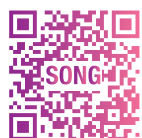


光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。(ヨハネ1:5)

- ① ホロコーストの灰からイスラエルを再建された主が、灰の中から立ち上ろうとする人々を支え、回復と希望を与えてくださるように。
- ② 戦争と世界を席卷する反ユダヤ主義で傷ついたイスラエルの人々に、世界中のクリスマンが主の愛を表わしていくことができるように。
- ③ 膨大な必要がある中で、BFPが主の御心にかなう支援をしていくことができるように。

「ハイレイトソング」▶▶▶

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」▶▶▶

祈りの第一声として
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイレイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org